

令和4年度 自己評価結果について

のぞみ幼稚園

1、園の教育目標

将来のことも考えながらも、すべての子どもたちに「素晴らしい子ども時代」がおくれるようにさせることを本園の目標としている。そして本当の意味での「生きる力」を育てること、すなわち、豊かな感性を育て、他人の心を思いやり、人間として助け合って生きることを教えることを目標としている。

- 1、一人一人の個性を大切に保育
- 2、他人の痛みのわかる子どもを育てる保育
- 3、豊かなコミュニケーションをとれる子どもを育てる
- 4、キリスト教精神に基づいた保育

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

東南海・南海地震の発生、大雨による洪水、また猛暑による熱中症等、幼児の生命・健康を守ることを第一に考え、施設の改善、避難訓練の実施等、積極的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい教育課程を編成しているか	建学の精神を大切にしながらも、教育要領の理解に努め、幼稚園教育を逸脱することがないように、教育課程の編成にあたっている。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて指導計画を作成しているか	毎年、指導計画に加筆、訂正を行い、子どもの実態に即した内容にするように努めている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じているか	教師は日々の記録を参考にして子どもの実態を把握し、日案の作成に反映させるようにしている。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告しているか	毎学期ごとにクラス・学年の状況を報告し合うようにしている。
子どもの良さを認めて評価しようとしているか	一人一人の子どものよさを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うように努めている。
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られるか	自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を準備するようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なっているか	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している。
日々緻密な保育カンファレンスを行なっているか	他のクラス、他の年齢の園児にも目を配り、当園がよりよい保育環境となるように、日々緻密な保育カンファレンスを行うようにしている。
各研修会や研究会に積極的に参加して他の職員と共有化しているか	コロナウィルス対策のためオンラインでの研修が多くなったが、研修で学んだことを資料にまとめ、園内において、他の職員と学びを共有することにより、より深い学びとなるように努めている。

クラスだよりや保育参観をとおして幼稚園の情報を発信しているか	コロナウィルスの感染拡大が収まらないが、行事を全て中止とするのではなく、行事の持ち方を工夫して安全に実施することに取り組んでいる。園児のみ参加する行事等は、クラスだよりに記載するなど、情報発信に積極的に取り組んでいる。
教育目標および経営目標との相互の関連を意識して目標の達成に努めているか	経営目標の達成を図る場合にも常に教育目標を念頭におき、さらに充実した教育になるように努める。
園の財務状況を公開しているか	以前は自園のホームページにおいて財務状況を公開していたが、学校会計基準の改定以後対応できていない。園の事務所においては、閲覧の希望がある場合は公開する。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>教師一人一人が学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。</p> <p>本年度の重点的な課題である子どもの安全安心な環境を構築するという点に関しては、コロナウィルスの感染も3年目になり、運動会や発表会等の行事も、学年ごとに日時を変えるなど、持ち方を工夫して実施している。</p>

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	教育要領に基づいた指導計画の作成のために訂正、加筆をさらに加え、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。
自己点検、自己評価	現在は、基本的な項目を点検課題として挙げているので、今後自園独自の点検項目を検討し自己研鑽に取り組むようにしていく。
子どもの安全安心な環境	コロナウィルス感染については、日常生活が平常に戻りつつあるものの、新学期に向けて、行事の持ち方等、検討すべき課題が多くあり、教職員・保護者が協力しあって取り組まなければならない。猛暑の日が多くなってきており、熱中症対策も常に注意しなければならない。また、施設の老朽化に対して適切な維持管理に努めなければならない。

6、学校関係者評価委員会の意見

委員からは、幼稚園として、園児の健康・安全を第一に対応することはもちろんであるが、若い世代の居住地区の変化、出生数の減少、共稼ぎ家庭の増加等により、幼稚園への入園者が著しく減少しているため、その対応を具体的に考える必要がある。
